



# 震災によるファッション事情

## 上羽 陽子

(うえば ようこ)

大阪芸術大学非常勤講師

### 俯せ寝できない女性用上衣

俯せて寝転がるのはわたしの癖だ。寝る本を読む、キーボードを打つ。最近、ギックリ腰をしてからは、この俯せの姿勢が腰に悪いとわかっていなければならない。フィールド先でも昼寝のときについて俯せになって寝ていることがある。すると、「こら！なんて姿勢で寝てるの!!」と調査先の母親から叱られる。わたしが調査しているインドルーパーリーの女性にとって、俯せで寝るといことは決して人前ではいけないことのひとつなのである。

その理由は、女性用上衣の形態にある。カンチャリとよばれる上衣は、ブラウスの胸部分にギャザーをとり、その部分に胸を入れる形をしているが、背中部分がすっぽりとおいている。背中のあいているブラウスとブラジャーが一体化したような形をしているのだ。彼女たちは大判シヨールを縫っているため、普段はそのシヨールによって背中が隠れている。つまり、俯せで寝転がると、はだけたシヨールから背中があらわになるため、このような姿勢は良くないのだ。

ここ西インド、グジャラート州カッチ県の灼熱の気候を考えれば、この衣裳はとても理にかなっている。時折、わたしも自分で作ったこのカンチャリを身に着けることがあるが、炎暑の陽射しのなかで、風が背中をスーッとまでてくれたときには、とても気持ち良く機能的だ。当然、形態上の理由から、女性一人ひとりが自分の身体の寸法に合わせて製作をする。



上衣の下にタンクトップを着る最近の若い女性

背中部分がすっぽりあいている女性上衣

### 男性の目を意識して

ところが、最近フィールドを訪れるところのあいた上衣の下にタンクトップを着る若い女性を頻繁に見かけるようになった。彼女たちに理由を尋ねると、さきほどまで「今日も暑いね」と会話していたにもかかわらず、「寒いから」と、みな口をそろえて答える。

そしてついに、調査先の家の嫁もカンチャリの下にタンクトップを着るようになった。理由を聞いても他の女性と同じように「寒いから」と答える。しかし、あるとき、彼女の実家を訪れる機会があった。彼女の母親に娘がタンクトップを着る理由について尋ねるとゆつくりと答えてくれた。「あなたも知っているように、娘の嫁ぎ先の村では震災復興が盛んにおこなわれているですよ。新しい家が次々と建ち、その家を建てるために村には外部から多くの男性がやって

来る。どうやらその男の人たちの視線が気になっているらしい」と言う。

グジャラート州では、カッチ県を震源地とした大きな地震が二〇〇一年一月末に起きた。死者二万人という大災害であった。確かに、家事の最中にハラリとシヨールが落ち、背中があらわになった彼女を見かけると、女性のわたしでもキツとするところがある。まして外部の男性ならば言うまでもない。以前から若い女性のなかには背中があらわになっているこの衣裳に抵抗を感じ、下にタンクトップを着ることもあった。ただし、非常に稀であり、そのような女性を見かけることは少なかった。

ところが震災後、外部の男性の視線がきつかけとなり、ラパーリー女性のタンクトップ着用が一気に増加した。そして、同時に、以前では自分の身体の寸法にぴったりと合わせて製作されていた上衣が、その下にタンクトップを着用することによって、全体のゆつたりとした縫製のデザインへと変化してきている。

そして今では、「どうせ下にタンクトップを着るから」と言って、大まかな寸法を親戚や友人に伝えて、製作の依頼をする若い女性が増えている。彼女たちに上衣の作り方を知っているかと尋ねると、「なんとなくは知っているけれど、実際には作れない」と、恥ずかしそうに答えるのである。

衣裳に流行はつきものである。このラパーリーのタンクトップ着用がただの一時の流行に終わるか、それとも定着化し、いつか俯せで寝転がるラパーリー女性を見る日が来るのか、興味津々である。